



京都YWCA

1
2026

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

講演会「ドイツと日本の『戦後80年』」

11月8日（土）、木戸衛一さん（大阪大学招へい教授）をお招きし、講演会「ドイツと日本の『戦後80年』」を行いました。日本とドイツの第二次世界大戦後の状況を比較しながら、現在日本やヨーロッパで起きていることについて、ドイツ現代政治・平和研究の視点から警鐘を鳴らされました。以下は木戸さんのご寄稿です。

京都YWCAでの講演は、2016年2月7日「〈戦争国家〉日本の行方」以来のことでした。この間、平和・環境活動委員会や「うららかふえ」でお世話になった連れ合いのさやかが2024年4月に52歳で亡くなつたこともあります。私は特別の感慨をもって当日を迎えました。

深まる世界とドイツの矛盾

「戦後80年」とは言うものの、真実や規範、倫理が軽侮され、ひたすら軍事化の道を進む世界と日本の行く末に、多くの方が不安を抱いていると思います。実際、グローバル資本主義の進展で、格差拡大と貧困の深刻化はとどまるところを知りません。そして政治家は、憎悪や虚偽の煽動を通じて、人々の不満を排外主義や「昔はよかった」流のレトロトピアで絡めとろうとしています。

その筆頭格のトランプが、戦争犯罪人のプーチンやネタニヤフと懇ろにしている現実を目の当たりにすると（ちなみにどこかの首相はトランプの隣で小躍りしたわけですが）、「狂気は個人にあっては稀有なことである。しかし、集団・党派・民族・時代にあっては通例である」という哲学者ニーチェの警句が本当に切実に感じられます。

ホロコーストの過去に向き合い、「戦後デモクラシー」の優等生と目されてきたドイツも、さまざまな矛盾に直面しています。ロシアのウクライナ侵略を機に、ウクライナへの軍事支援、連邦軍の増強、欧州での軍事的リーダーシップの方針が実施され、それまでの「反ミリタリズム・コンセンサス」が非常に揺らいでいます。軍需産業は活況を呈し、2011年

から中断していた兵役義務も、志願制をベースとしつつ再導入されようとしています。

「武器なしで平和を創る」はかつて東独平和運動のスローガンで、この国の「平和革命」や「ドイツ統一」の呼び水になりました。しかしウクライナ戦争でドイツに避難した125万人もの難民から、平和主義は拒絶されています。他方、力で他者を屈服させようとするミリタリズムは、独裁志向や排外主義、社会ダーウィニズムの極右主義と親和的であることを忘れてはなりません。

ドイツは、パレスチナへの殺戮を止めようとしないイスラエルを一方的に支持しています。それは決して「ホロコーストへの反省」というナイーブな代物ではなく、ホロコーストとパレスチナ問題との関係性を考えたくないという自己愛的態度や、武器取引という汚い国家間関係の反映と言えます。パレスチナ連帯運動を弾圧し、イスラエルによる「ジェノサイド」を語ると処罰されるドイツに、「言論の自由」があると言えるのでしょうか。

政治のフェミニナイゼーションを

平和とは、戦争やテロなどの直接的暴力だけではなく、飢餓・貧困・差別といった構造的暴力、それらを容認・肯定する文化的暴力をミニマムにすることです。平和を望むなら、戦いではなく平和に備えよ。そのためには、政治のありようを、優越志向・権力志向・所有志向の男性原理から、共感と非暴力に基づく原理へと転換する必要があります。

（木戸 衛一）



講演会の様子



講演会後は意見交換をしました

パレスチナに連帯して ～映画上映会と第4期LA（地域YWCA連携プログラム）～

昨年11月1日、パレスチナ映画上映会を開催しました。10月中旬、京都YWCAの元職員を通じてAFZ Japan^{*1}からパレスチナ映画上映会の情報が届きました。バルフォア宣言^{*2}が出された11月2日前後に、パレスチナの人々に連帯し、その声をかき消そうとする圧力に抗うため、世界各地でパレスチナ映画を同時上映しようというものです。日本では約60カ所で上映されました。開催予定日まで大変短い期間でしたが、京都YWCAでは日本語訳された3本を終日上映することができました。

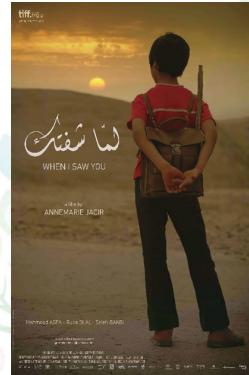
・「Jenin, Jenin」はパレスチナ難民キャンプで生活するおとなや子どもの声を拾ったドキュメンタリー映画。

・「The Dopes（太陽の男たち）」は難民となってヨルダンにいるパレスチナ人たちが、仕事を求めてイラクから産油国クウェートに密入国しようとする際に起きた悲劇を描いた小説の映画化。

・「When I saw you」は戦争で母とふたりになった少年が難民キャンプでパレスチナへの帰還を待ち続けるなか、解放運動の若者たちと出会い、母から離れて理想と

希望に満ちた旅へと出発する物語。今から半世紀も前のこととは思えない物語に涙する人もいました。

今年4月、日本YWCAの企画である第4期LAが始まります。京都YWCAは運営委員や有志を中心に、大阪YWCAの「パレスチナの平和を求める連帯行動」に参画し、2028年3月まで、絵画展などパレスチナに関するさまざまなプログラムを計画しています。



“When I saw you”
のポスター

(篠田 茜)

*1 アパルトヘイト・フリーゾーン。イスラエルによる占領やアパルトヘイト政策に加担しない空間を作ることのキャンペーン

*2 第一次大戦中の1917年にイギリス政府がユダヤ人のための国家建設を支持することを表明した文書

刀祢館美也子さんのお話を聴く会 被爆の記憶を未来につなぐ女子学生たち

11月7日、広島女学院中高部の聖書科教諭として38年間務められ、50年以上日本YWCAのプログラムとして続けられている「ひろしまを考える旅」などにYWCA部顧問として関わってこられた刀祢館美也子さんの話をお聴きました。

1886年に砂本貞吉が創立した広島女学院は、米国教会の支援を受けてキリスト教校として発展しました。当時広島は西日本最大の軍事拠点であり、同校は「スペイ学校」と言われ、教師や生徒たちも特高警察の迫害を受けました。原爆によって同校の生徒330余名が亡くなり、そのうちの200名以上が、12歳から14歳までの建物疎間に動員された女学生でした。支援を受けてきた米国からの投下であったことも悲しい事実でしたが、戦後すぐに復興支援してくれたのも米国の教会でした。生き残った教師や生徒たちにとって、被爆体験は終生残る心の傷となりました。助けを呼ぶ友の声を聴きながら逃げた記憶、キリスト教校であるために白眼視されたことから戦争に一層協力的な軍国少女だった教師の悔恨など。

広島女学院では、被爆経験をバネに戦後一貫して戦争

大人の戦争の犠牲になった子どもたち



広島女学院高等女学校1年1組の生徒たち

32

の悲惨を学ぶ「平和教育」に積極的に取り組んでいます。毎年、核廃絶署名を行っており、全国のキリスト教系学校などにも呼びかけ、平和市長会議を通じて国連に提出しています。生徒たちは被爆者の証言をアーカイブ化する活動にも取り組んでいます（「ヒロシマ・アーカイブ」と検索すると視聴できます）。

お話を聴いた後で、参加者たちは史実に向き合い記録を継承していくことの大切さを語り合いました。パレスチナの子どもたちにとって廃墟から再生した「ヒロシマは希望」だそうです。広島の声は静かに世界に届いていると感じます。

(上村 瘦巳子)

シリーズ**京都YWCA自立援助ホーム「カルーナ」10年の歩み(3)**

2017年以降も、カルーナをどう形づくりしていくか、ホーム利用者と一緒に考え模索する日々が続きました。利用者が増えれば、利用者同士がぶつかり合うことも、スタッフとの不協和音も出てきます。うまく言葉で表現しきれないところを互いに補い合いながら伝え、誤解をほどき、時にわだかまりを残しながら共に在ることを経験していきました。「安心・安全」をどう確保するか、利用者もスタッフも悩みながら歩みを進めた時期でした。

一方で、京都YWCAのカルーナとして、会員とどう協働していくのかということに向き合い始めた時期もありました。その一つとして、京都YWCA「うららかふえ」でランチ提供を利用者が手伝い、就労体験を積むという大きな一歩を踏み出しました。約束の時間に行くことの難しさ、継続することの難しさに直面しつつ、互いの顔が見えることで関係性が徐々にできていくことに励まれました。

その他、他団体の協力を得てカウンセリングの提供、パソコン教室やヨガ、樹脂を使ったアクセサリー作りなど、利用者、退所者の「やってみたい」をプログラム化し、

人と共に何かをする場づくりを試みたことも新しい取り組みでした。さまざまな場を通して、自分の存在も周りの存在も否定せずに受け入れる経験を重ねていけたのではないかと感じます。また、退所者が「うららかふえ」での就労体験やプログラム前後にカルーナに立ち寄り、近況を共有する時間にもつながりました。

この頃から、退所者のアフターケアをどうしていくかという課題が具体的になり始めてきました。

(上田 理恵子)



現在も実施している「美ボディ」プログラム

第4回「地球にやさしい 人とのをつなぐプチマルシェ」

10月25日(土)、天候にも恵まれ、ファンドレイジング委員会主催で4回目のプチマルシェを開催することができました。今年は初出店の2店舗を含め15店舗でにぎやかに開催しました。来場者は年々増加し約150名が集いました。社会貢献や環境にこだわった雑貨・手作り品・衣類・食品などを真ん中に交流・再開の場となりました。出店者から提供いただいた賞品での「お楽しみ抽選会」は今年も盛況でロビーは多くの人であふれました。長く京都YWCAに関わってきた人々や地域のさまざまな文化的背景を持つ人々が参加して、貴重なファンドレイジングと交流の一日となりました。



(岩佐 恒子) 会場はにぎやかな雰囲気でした

みんなおいでよ! 「あきまつり 2025」

11月23日に恒例の「あきまつり」を開催しました。今回も平和・環境活動委員会の「みつろうラップワーカーショップ」と防災展示、居場所委員会の手作りお菓子と喫茶、あじさい保育園のプログラムと重ねた「リズム遊び」や「インドネシアの舞踊と影絵」など京都YWCA各部の協力・協働で盛り上りました。ほかにも、親子ライブラリーのおはなし会、ヨークシャーシープのクラフト、アートのへや、毎回大人気の「聴くだけじゃない音楽会」や、バルーンアート、リサイクル子ども用品販売と、全館がおまつりムード一色に!

例年に比べ来場人数は少し減りましたが、来場者もスタッフもゆったりとそれぞれのペースで京都YWCAの多彩な活動がつまった深秋の午後を楽しんでいました。



あきまつりを終えて、みんな笑顔で

(親・子育ち支援活動委員会)



ニューイヤー募金へのご協力のお願い

京都 YWCAは女性をエンパワーし、多様な人々がふれあう「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」を進めています。これをさらに持続的・発展的に進めるために、今年も皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。

郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA

オンラインでのご寄付はこちらから

<https://congrant.com/project/kyotoywca/4775>

活動を指定したご寄付等の詳細は事務所に問い合わせていただくか、ホームページをご覧ください。
<http://kyoto.ywca.or.jp/support>



賛助員を募集しています！

賛助員となって京都 YWCA を持続的にお支えいただく方を募集しています。以下のサイトからオンラインでもお支払いいただけます。

<https://congrant.com/project/kyotoywca/11953>

賛助費（年額）個人：5,000円または10,000円
団体：10,000円／一口



ご協力ありがとうございました

2025年10月1日から11月30日までの寄付者一覧（敬称略、順不同）

各指定寄付

* 法人支援

筒井奈都子、有田孝子、三谷啓子、
上村愈巳子

* APT

有田孝子、ヘイナ啓子

* 活動グループ

手話サークル

* 多文化共生委員会

有田行雄、有田孝子、織田雪江、
三木みや子、中川美佳子

* 平和・環境活動委員会

今井貴美江、弘中奈都子

* あじさい保育園

日本キリスト教保育所同盟

* ファンドレイジング委員会

ちくちくかふえ

* 自立援助ホーム「カルーナ」

中江和子、匿名1名

* 子ども・若者の居場所 Yここ Kitchen

齊藤大輔、匿名1名

* 賛助費

半田淳子、田中愛子、出店都

今後のプログラム

◎ピーター・バラカン DJ ライブ

今年は「世界の音楽 à la carte」をやります。ご期待ください！

■日 時：2月 21 日（土）14:00～16:00（開場 13:30）

■場 所：日本聖公会聖アグネス教会

■チケット：一般、前売り 2,800円 当日 3,000円、

中高生・障がい者 1,800円

■主 催：京都 YWCA ファンドレイジング委員会

◎【予告】公開講座「障がいをもつきょうだいや家族の理解を深める」

詳細は決まり次第ホームページに公開します。

■日 時：3月 7 日（土）13:30～16:00

■場 所：京都 YWCA

■講 師：奥 真木さん（京都きょうだい会）、他

■共 催：関西セミナーハウス活動センター・京都 YWCA カルーナ委員会

プログラム報告

京都 YWCA にほんご教室「洛楽」30周年交流会

にほんご教室「洛楽」は1995年11月に立ち上げられてから30年になるのを祝い、11月15日に記念の交流会を開催しました。17名が集まり、懐かしい再会を喜ぶ声も。講師としての期間やきっかけはさまざまですが、日本語を通じた受講生との温かい関係は変わりません。洛楽の歩みを振り返り、それぞれに思いを新たにした午後となりました。（編集部）



交流会後の記念撮影

税理士法人有田事務所

税金のことでお困りの時は
ご相談ください



京都市上京区武者小路通烏丸西入梅屋町 468

URL <http://www.aritax.jp>

a r i t a x 検索

で一発です！

075-451-5178

11・12月／理事会報告

- 11/1 パレスチナ映画上映会（本誌 P2 参照）
- 11/7 刀祢館美也子さんのお話を聴く会（本誌 P2 参照）
- 11/8 木戸衛一さん講演会「ドイツと日本の『戦後80年』」（本誌 P1 参照）
- 11/15 にほんご教室「洛楽」30周年交流会（本誌 P4 参照）
- 11/19 山本佳奈さん（カルーナホーム長）海外視察報告会
- 11/23 あきまつり（本誌 P3 参照）

- 11/29 YMCA・YWCA合同祈祷週集会@日本キリスト教団室町教会
- 12/11・19 あじさい保育園乳児・幼児のクリスマス会
- 12/12 クリスマスキャロルナイト@カトリック河原町教会。工コ・ド・Yの有志が聖歌隊に参加。
- 12/20 クリスマスのつどい。礼拝は大橋茉莉耶牧師（日本キリスト教団茨木教会）

KYOTO YWCA No.590 2026年1月号（1月1日発行）

発行人：山中あかね

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通出水上ル近衛町44

電話：(075)431-0351

FAX：(075)431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

HP：<http://kyoto.ywca.or.jp>

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：（公財）京都 YWCA

定 価：1部 50円

発 行：奇数月 1 日発行